

# クマを語る集いIN山形

山形県山形市滑川990-10  
山形の野生動物を考える会 内  
クマを語る集いIN山形 実行委員会  
TEL/FAX 023-629-3727



2007年10月20日(土)

山形大学理学部

4F 大講義室 13:00-16:30

参加費: 500円(高校生以下無料)

主催: クマを語る集い2007実行委員会

共催: 山形大学理学部生物学科・山形の野生動物を考える会

協力: (社)山形県猟友会, ツキノワグマ22・プロジェクト

協賛: (有)アウトバック

後援: 狩猟文化研究所, 岩手ツキノワグマ研究会

<http://web2.nazca.co.jp/kumawokataru2007/index.html>

2006年秋に多くのツキノワグマが里に出没したのは記憶に新しいか  
と思います。山形県では約700頭のクマが出没し、その多くが駆除さ  
れました。この数は全国でトップクラスを記録し話題となり、実際に山  
形県の記録としても、2006年は過去最高の捕獲数でした。ブナの凶  
作?山での餌不足?など様々な説がありますが、捕獲・捕殺された  
クマは何故か太った個体も多く見られ、その出没理由は依然多くの  
疑問が残っています。

また山形県はマタギ文化を有する地域でもあり、地域によってはク  
マと人との密接な関係が未だに続いています。2006年秋の大量出  
没後の、翌春の予察駆除に対しては賛否両論がありました。山形  
県としては調査の意味意合いを濃くして「毎年の捕獲許可頭数の半  
数」という形で春の予察駆除を許可しました。

まもなく山形県で「特定鳥獣保護管理計画」が策定されることによ  
り、檻捕りの傾向が今以上に加速されていく可能性もあるかもしれま  
せん。檻捕りの問題点は?住民の要請に対しての行政の葛藤...檻捕  
り依頼に対するマタギたちの本音は? 今回のクマを語る集いは、昨  
年のツキノワグマ大量出没に関連して山形県の特徴ある取り組みを  
多くの皆様に紹介しながら、皆さんでクマの保護管理のあり方を考え  
ていきたいと思っています。

## プログラム(予定)

- (1) 山形県の現在の状況 (山形県 みどり自然課 井上一彦 氏)  
(山形県 環境科学研究センター 伊藤聡 氏)  
「昨年の出没状況」「特定鳥獣保護管理計画」  
「ブナとクマ出没の関連」など
- (2) 調査の色を強めた今年の春グマ猫・マタギ文化など  
(東北芸工大 田口洋美 教授)
- (3) 遺伝分析の状況 (慶大 先端生命研究員 鶴野れいな 氏)
- (4) 檻捕りでクマは絶滅するか(獣医師 東英生 氏)  
「山形における保護政策のありかた」「クマの一生を考える」
- (5) 総合討論
- (6) まとめ (山形大学理学部 玉手英利教授)